

令和8年度
滑川町中学生平和学習派遣事業
成果報告書



令和8年8月5日～令和8年8月6日

事業の概要

● 派遣の目的

滑川町は、平成 27 年 12 月に制定した「滑川町非核平和都市宣言」に基づいて、「核兵器等の廃絶」と「世界の恒久平和実現」に貢献する取組を行っています。

実施する本事業では、次世代を担う中学生の代表が、被爆の実相に触れて戦争の悲惨さや原爆被害を実感するとともに、平和祈念式典への参列など被爆地広島でしかできない体験をしながら、同世代の仲間と一緒に、平和の尊さや大切さを考えていきます。



● 全体スケジュール

日程	内容
4月27日（月）～6月3日（水）	派遣生徒の募集
6月8日（月）	派遣生徒の選考・決定
7月17日（金）	結成式・事前学習会
8月5日（水）～8月6日（木）	広島派遣〔1泊2日〕
8月19日（水）、9月1日（火）	事後学習会
9月14日（月）	成果報告会

● 派遣生徒（町内在住の中学生 8 名）

学年	氏名	学年	氏名
3年	小 高 結 人	3年	設 楽 伶 大
3年	神 庭 優 月	3年	友 竹 結 大
3年	高 柳 優 香	2年	橋 本 壮 真
1年	青 木 大 耀	1年	野 澤 千 愛

結成式

日時：7月17日（金）13時30分～ 役場会議室

中学生広島派遣事業の結成式を行いました。町長、副町長、教育長が見守る中、派遣中学生の紹介や任命書の交付が行われ、生徒の代表からは力強い決意表明がありました。温かい激励を受けた生徒たちは決意を新たにし、平和の使節として広島へ向けて第一歩を踏み出しました。



事前学習会

日時：7月17日（金）14時～ 役場会議室

事業概要や行程の説明を受けました。その後、第二次世界大戦前後の世界や日本に関する基礎知識を確認し、その内容について派遣生徒同士でディスカッションを行い、考えや想いを共有しました。

- ・なぜ、世界や日本は戦争に向かっていったのだろうか
- ・第二次世界大戦は、どのように始まり、どのような経過をたどって終結を迎えたのだろうか
- ・戦争は、人々の生活にどのような変化をもたらしたのだろうか
- ・滑川町の戦争被害はどんなものがあったのだろうか

最後に、派遣生徒全員で話し合い、今回の派遣学習テーマを決定しました。

現地でしか分からないことを学んで、

滑川にいる皆に平和への尊さを広める

事業内容

1 日目 8月5日 (水)

時刻・場所	内容
8:20 東京駅集合	《東京駅から、新幹線で移動 広島県へ》 
8:48 出発 (車内で昼食)	
13:02 広島駅着	
14:00～16:30 全国平和学習の集い [ANA クラウンプラザ ホテル広島]	《第2回全国平和学習の集いに参加》 全国から集まった小中高生と交流し、平和学習や意見交換をするイベント。当時14歳で被爆した梶本^{かじもと}淑子^{よしこ}さんの体験講話、広島の中高生からの原爆被害の説明を聴き、様々な地域からの参加者でグループになり、「地元での戦争被害」や、「原爆や戦争の悲惨さを学んだ上で、私たちが日常にできる平和を築く行動」をテーマに意見を交わしました。 
17:00～18:00 施設見学 [広島平和記念資料館]	《広島平和記念資料館を見学》 原爆による被害を世界中の人々に伝え、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に貢献することを目的に、被爆者の遺品や被爆による被害を示す写真・資料が数多く展示されていました。  生徒の声 授業で知っていた「炭化した弁当箱」を、実際に資料館で見た。モノが持つ背景や持ち主の思いを知ったとき、原爆の恐ろしさだけでなく、奪われた日常の悲しみと無念を深く感じた。
21:00 ホテル着 [コンフォートホテル呉]	《ホテル到着後、1日を振り返り、翌日の心構えを確認》 現地に行き、「生の声」を聞くことの大切さを感じた生徒が多くいました。また、翌日の式典に向けて、どうすれば平和になるか、広島や全国から集まった参加者はどう考えているか、自分はどうしていきたいかを深く考える一日にしようと話し合いました。

2日目 8月6日(木)

時刻・場所	内容
6:00 ホテル発 6:40 会場着 8:00～8:50 平和祈念式典 [平和記念公園]	《平和祈念式典に参列》 厳粛な雰囲気の中、原爆で亡くなった方の慰霊と、世界の恒久平和実現を祈念しました。  生徒の声 広島市内の小学6年生の男女のスピーチがあり、自分たちより年下の子が戦争について、真剣に考えていることがすごいと思いました。
9:00～9:45 平和記念公園見学 原爆ドーム 原爆の子の像	 生徒の声 現在は、美しい平和記念公園ですが、施設やオブジェを見ると当時の広島はどれだけの高温で焼かれたか、どれだけの人々が犠牲になったかが想像できます。
10:00～11:40 全国こども平和サミット [広島国際会議場]	《第2回全国こども平和サミットに参加》 全国から集まった小中高生がともに被爆について学び、平和のメッセージを発信するイベント。 当時14歳で被爆した河野キヨ実^{こうのきよみ}さんの体験講話、詩の朗読、各地域・団体での平和の取組の発表を聴き、原爆被害について学び、平和への思いを共有しました。  生徒の声 戦争によって犠牲になった人々や、心に大きな傷を負った人々の思いを無駄にしないために、また、そのような悲劇を二度と繰り返さないために、自分にできる平和への取組を続けていこうと決意を固めました。
14:03 広島駅発 17:57 東京駅着 解散 [森林公園駅]	《新幹線で帰路につき、東京駅へ》

事後学習会

日時：8月19日（水）10時30分～ 滑川中学校
9月 1日（火）9時30分～ 滑川中学校

広島での2日間の派遣を終え、事後学習会を開催しました。平和記念資料館の見学や式典への参列、そして全国平和学習の集いを通じて突きつけられた現実や、被爆体験者から受け取ったバトンをどのように昇華させるべきか。事後学習では、イベントごとの振り返りや意見交換を行い、「戦争の惨禍を二度と繰り返してはならない」という強い思いを自分の言葉で表現できるようにしました。さらに、この貴重な学びを自分たちだけのものにせず、広く社会へ還元していくことが重要な使命であると捉え、校内発表や町主催の報告会に向けた準備・まとめの作業に取り組みました。



校内での発表

日時：9月7日（月）14時50分～ 滑川中学校

滑川中学校の生徒集会においてオンラインによる発表を実施しました。現地で撮影した写真や資料、平和記念資料館の見学や式典への参列、全国こども平和サミット等で得た学びを画面越しに全校生徒へ伝えました。

オンラインという形ではありましたが、広島の地で、肌で感じた戦争の悲惨さや平和の尊さを全校生徒と共有し、一人ひとりが平和について深く考えるきっかけを作ることができました。



成果報告会

日時：9月14日（月）15時30分～ 役場会議室

8月5日から6日までの1泊2日の広島での体験、その中で得た学びや平和への思い、今後の抱負をプレゼンテーション資料としてまとめ、町長・教育長等に直接報告を行いました。

派遣生徒からは、事前学習会、派遣当日の行程や概要を報告した後、「事業に参加して今思うこと」、「これからの私」について、一人ひとりの思いを発表しました。

- ・戦争について知ることが重要だと思いました。滑川町が平和な町であるように努めていきたいと思います。
- ・広島で見て、聞いたことを国内外へ発信していきたい。
- ・世界には今でも戦争に苦しむ人がいることを忘れず、平和な世界を創るために何ができるか考え続けていきたい。



これに対し、町長、議会議員や教育委員会委員からは、派遣生徒からの報告に対する感想や講評として、生徒たちへ思いが伝えられました。

感想

- ・教科書やテレビではなく、現地でしかわからないことを主体的に学びに行き、経験したことは大変素晴らしいことだと思います。これからも、今回の平和学習で感じた平和に関する思いを大事にしていきたいです。（滑川町議会総務経済建設常任委員会委員長）
- ・何かを知り、思いを馳せることは大切ですが、ただ考えているだけではなく、自らの意志で、「今、自分にできること」を実行に移していくことの大切さを発表から改めて教えられました。身近な平和を考える延長に世界の平和があると思います。これからも、一人ひとりが平和への思いを胸に、自分にできる一歩を共に歩んでまいりましょう。（教育長）

町長の講評

中学生8名の素晴らしい発表により、現地で自分の目を使い、耳で聞き、肌で感じて得た学びが自身の生き方にまで昇華されている点に深く感銘を受けました。戦争の悲惨さを知ることにとどまらず、「自分に何ができるか」を考えた経験は大変頼もしいものです。保護者の皆様への感謝とともに、今後は皆さんが「平和への語り部」として、学校や地域へ学びを発信していくことを期待しています。



滑川中学校3年 小高 結人

「平和を願い、僕たちにできることから始めよう」



事業に参加した今、思うこと

まず、このような貴重な体験をさせていただいた滑川町の皆様に、心から感謝しています。ここで学んだことを滑川にいるみんなに伝え、平和の輪を広げたいと思いました。特に、被爆者の方々のお話を直接聞くことができたのは非常に大きな経験でした。私たちが生でそのお話を聞ける最後の世代だからこそ、今度は自分が次の世代へと伝えていかなければならないと感じています。

事業を通して、たくさんの素晴らしい出会いもありました。広島の人々と「平和」について議論を交わした時間はとても楽しく、新たな学びを得ることができました。こういったイベントが世界中で行われれば、戦争のない世界をつくることができるのではないかと思います。

また、現地に行ったことで、原爆についての理解がより深まりました。変形した自転車や当時着ていた制服などは、爆発のすさまじさを僕たちに強く語りかけてきました。自分の目で見て、触れることで、当時のことに思いを馳せ、その悲惨さを本当の意味で理解することができました。広島に來られて本当に良かったです。僕の戦争や平和に対する考え方はより深まり、「自分にもできることがあるんだ」と気づかせてくれました。広島はやはり特別な場所であり、日本で二度と戦争が起きてほしくないという思いを強くしました。

これからの私（今後の抱負）

広島へ行き、自分と同じくらいの年齢の子どもたちが平和活動に意欲的に取り組んでいる姿を見て、自分も見習わなければならないと強く刺激を受けました。この日、広島ユースピースボランティアには700名以上の人が集まったそうです。式典には他県からも多くの生徒が派遣されており、そうした同世代の人たちとの出会いは、僕に大きな勇気をくれました。日本中が平和を願っているのだと改めて分かったからです。だからこそ、これからも自分にできることは何かを考え、実践していきたいと思います。

戦争を経験された方はこれから減ってしまうかもしれませんが、平和を願う人は決して減りません。これからも平和について自分自身のしっかりとした考えを持ち、非暴力や話し合いによる解決を訴えていきたいです。

「競争より協力、対立より対話」の精神を胸に、これからの日々をしっかりと生きていきます。

滑川中学校3年 神庭 優月

「核兵器のない世界を目指して、
今私たちができること」



事業に参加した今、思うこと

グループディスカッションでは、参加した皆さんと「平和」について話し合いました。その中で、身近にできる平和への取組があることに気づきました。それは、「正しい歴史を知り、なぜ戦争が起きたのか、そしてどうすれば戦争を防げるのかをみんなで考え、共有すること」です。私もこれからは、正しい歴史を知るとともに、その出来事が起きた原因を考えることを心がけたいと思います。

平和記念資料館では、原爆で被爆した衣服や身の回りの品々、建物の一部が展示されており、原爆の恐ろしさがよく分かりました。原爆によって約14万人もの尊い命が奪われ、生き残った方々もその後遺症に苦しみ続けたという事実を知り、核兵器は人類が絶対に持ってはいけない非人道的な兵器だと強く思いました。

また、平和祈念式典には内閣総理大臣をはじめ各国の要人が参列し、原爆で亡くなった方々に対して平和を誓っていました。それを見て、「これだけ多くの人が平和を誓っているのに、なぜ核兵器は無くならないのだろうか」という疑問も抱きました。だからこそ、唯一の被爆国である日本が、これからも世界の国々へ向けて核兵器の恐ろしさを発信し続けなければならないと実感しています。

これからの私（今後の抱負）

今回の事業に参加して、核兵器の恐ろしさや、当時の広島の悲惨な状況を深く学ぶことができました。この貴重な経験を生かして、核兵器のない世界をつくるために、私も力を尽くしたいと考えています。そのために、将来は世の中で影響力を持つ人物となり、国内外の周囲の人たちへ、広島で学んだことを発信し続けたいです。

中学生である今できることは、まず英語力や表現力といったコミュニケーション能力を高めることです。そして、物事を正しく判断できるよう見識を広げ、自分の意見をしっかりと発信できる人物になりたいと思います。その力をつけて、核兵器のない世界を創り上げたいです。

滑川中学校3年 友竹 結大

「平和の尊さを胸に、次世代へつなぐ決意」

事業に参加した今、思うこと



私は、この事業に参加し、多くの印象的な出来事を経験してきました。その中で、特に心に残っていることが、広島平和記念資料館を見学したことです。その理由は、原子爆弾について特にくわしく知ることができたからです。館内では、被爆者の遺品や証言、被爆資料などを見ました。展示物の中には、被爆者の写真や絵、黒こげの弁当箱、台座から吹き飛び溶けた仏像など、原子爆弾のとてつもない威力を感じさせるものばかりでした。私はこれらを見て、たった1発の爆弾が何十万人もの人の人生を奪ったのだと考えると、憤りを感じました。

また、見学した中で一番心に残っているものは、当時子どもが使っていたとされる三輪車です。遺品とともにその子どもの写真も展示されており、「当時、この子たちも今のように楽しく遊んでいたのに、遊ぶこと、ましてや生きることすらできなくなってしまったのか」と思うと胸が痛みました。他にも、被爆者の方からのお話など多くの印象深い出来事がありましたが、どれも伝えたいことは「戦争をしてはいけない」ということであり、それがどれだけ重要かを改めて感じました。

これからの私（今後の抱負）

「現地でしか分からないことを学んで、滑川にいるみんなに平和の尊さを広める」という学習のテーマのもとに、今後の活動に取り組んでいきたいと思います。最終的な目標は、滑川町の人々に平和の尊さを広めることです。しかし、周囲の人々に広めるためには、まず自分が平和の尊さを深く理解することが大切だと考えました。ヒロシマでの経験を通じて、「戦争をする」という選択が間違いであり、悲惨な運命をたぐり寄せるものであるということをよく知ることができました。その経験から、「平和とは何か」という大きな問いにぶつかっていききたいです。

また、自分がこれまでそうだったように、「平和」という抽象的なテーマについて考えるのは少し難しいことでもあります。そのため、「戦争の悲惨さ」を伝えることで、今ある「平和」の大切さに気づくことができるのではないかと考えました。まずは「戦争について考えることによって平和の尊さを知る」という段階を踏み、滑川の人々に平和の尊さを広めていきたいです。

滑川中学校3年 設楽 伶大

「当たり前の日常を守り、
平和をつなぐために」



事業に参加した今、思うこと

平和学習に参加して、戦争は教科書の中だけの昔の出来事ではなく、今も世界のどこかで起きている現実の問題なのだと改めて強く実感しました。

実際に戦争を経験された方のお話を聞いたり、当時の資料を見たりしたことで、戦争によって多くの「当たり前の日常」が一瞬にして奪われたこと、そして、その苦しさを知ることができました。今、私たちが友だちと話したり、学校に通ったり、安心して暮らしたりできる毎日は、決して当たり前のことではないのだと気づかされました。

今回の平和学習を通して、戦争の悲惨さを知るだけでなく、この平和な生活を心から大切にしたいと思いました。そして、同じ過ちを二度と繰り返さないためには、まず自分自身が「知ること、考えること」が何よりも大切だと分かりました。

これからの私（今後の抱負）

今回の平和学習で学んだことをそのままにするのではなく、自分のこれからの生活にしっかりと活かしていきたいと思います。

戦争や平和について考えると、それが世界の大きな問題であることから、「自分には何もできないのではないか」と感じてしまうこともあります。しかし、相手の意見に耳を傾けることや、自分とは違う考え方をすぐに否定せずに話し合うことも、立派な平和への第一歩なのだと思います。

争いや意見の食い違いが起きたときも、感情だけで判断するのではなく、相手の立場に立って物事を考えられる人間になりたいです。今回の学びを決して忘れず、平和を当たり前のものとしてしっかりと守り抜ける人になりたいと思います。

滑川中学校3年 高柳 優香

「当たり前前」の日常に感謝し、
平和の未来をつなぐ」



事業に参加した今、思うこと

原爆の惨状は、私の想像をはるかに超えるほど悲惨なものであり、絶対に繰り返してはならないと強く感じました。

「戦争について自分はなんとなく知っている」と思っていたのですが、実際に被爆された方のお話を聞いたり、被爆した実物の資料を見たりしたとき、本当に戦争が現実存在し、命や家族など大切なものを一瞬で奪われた人たちがいたのだと気づかされ、大きな衝撃を受けました。自分が知っていることはまだほんの一部かもしれないけれど、これからの未来には絶対にこのような悲劇を起こしてはならないと思いました。

今私たちが送っている生活は本当に大切なものであり、決して「当たり前」だと思っていけないと感じました。この当たり前だと思っている平和な日常が、これからもずっと続いていけばいいなと思いました。

これからの私（今後の抱負）

今回の事業で学んだことをそこで終わりにせず、自分のなかの平和というテーマとしっかりと結びつけて、これからも深く考えていきたいです。

そして、学んだことを自分のまわりの人たちにも伝え、より多くの人と平和について考えを深めたいです。戦争や原爆の使用は絶対に繰り返してはいけないと思う人を一人でも増やせるように、自分から発信していきたいです。

今この瞬間も戦争が続いている地域があります。今の平和を守っていくことや、世界の現実についてよく考えながら、よりよい未来や世界に少しでも貢献できるようにしていきたいです。

滑川中学校2年 橋本 壮真

「広島での衝撃と学びを、
僕たちの未来へ生かす」



事業に参加した今、思うこと

この滑川町中学生平和学習派遣事業に参加した前後で、戦争に対する考え方や当時の状況についての受け止め方が大きく変わりました。もともと持っていた「戦争はしてはいけないことだ」という思いは、現地を訪れたことでより強くなりました。

事業に参加する前、当時の広島について「街が壊滅状態となり、原爆ドームが残り、焼け野原になっている」というイメージを持っていました。実際に広島を歩き、学ぶ中で変わっていきました。道路が見えないほどたくさんのご遺体が横たわり、「お化けのような人」がたくさんさまよい、「魚が腐ったようなすさまじいにおいが立ち込めていた」というような現実でした。

また、「平和」ということに対する考え方も変わりました。参加前は「誰でも幸せに生きていること」「同じような人権があること」「戦争がない状態」などと考えていましたが、現地での体験を経て、僕にとっての平和とは「今ある『当たり前』が続くこと」なのだと思います。

資料館を見学し、実際に現地でしか味わえないことや惨状を知ったことで、戦争がもたらした本当の悲惨さを深く知ることができました。

これからの私（今後の抱負）

今回の事業を通して、戦争についての興味や関心がさらに高まりました。

広島でしか感じるができなかったこの貴重な経験を、家族や親せき、部活動の仲間、クラス、そして学年の友達にしっかりと伝えていきたいです。

また、高まった戦争や歴史への興味をそのままにするのではなく、自分自身でもさらに詳しく調べ、これからの学校の社会の授業にもしっかりと生かしていきたいと思います。

滑川中学校 1 年 青木 大耀

「平和の尊さを胸に、
次世代へつなぐ決意」



事業に参加した今、思うこと

僕は今回広島に行って、原爆の恐ろしさや、被爆した人たちの苦しさを知り、「原爆と人間は絶対に共存できない」と、あらためて強く感じました。

広島に行くまで、ぼくは原爆や戦争のことについて、本などで読んだり授業で習ったりしただけで、本当のことはくわしく知りませんでした。でも、実際に広島に行き、自分の目でいろいろな資料を見たり感じたりしたことで、原爆というものがどれだけ恐ろしいものなのかと、より知ることができました。

僕は、戦争や原爆を自分の目で見たことはありません。だからこそ、戦争を経験した人たちから直接お話を聞くことができたのは、本当に大きなことでした。聞いたお話を自分の心の中だけにしまっておくのではなく、これから先、次の人たちへとしっかりとつないでいかなければならないと強く想っています。

これからの私（今後の抱負）

僕は、全国こども平和サミットの参加、広島平和記念資料館の見学などを通して多くのことを学びました。原爆や戦争は建物を壊すだけではありません。大切な家族や友人、これまでの生活や未来もうばってしまう恐ろしいものです。これからは、原爆や戦争で亡くなってしまったり、今でも苦しんでいる人たちの思いを無駄にしないためにも、平和の大切さを周りの人に伝えていきたいです。

また、平和について伝えるだけでなく、普段の生活の中でも、相手の気持ちを考え、意見が違っても話し合うということを大切にしていきたいです。

滑川中学校 1 年 野澤 千愛

「小さな思いやりから始まる、 平和への第一歩」



事業に参加した今、思うこと

広島で 2 日間過ごして、私たちは色々な場所をまわってたくさんのことを学びました。その中で、一番頭に残っているのは平和記念資料館の展示です。当時の様子は、言葉や被爆した人たちが身に着けていたものを見るだけでも、想像できないほど残酷で悲惨だったことがよく分かりました。

広島に行ったからこそ分かった核爆弾の恐ろしさや、現地で触れた未来の日本へのメッセージは、今でもずっと私の頭の中に深く刻まれています。この経験を通して改めて「平和」について深く考えさせられ、今この瞬間も世界中で紛争や戦争がくり広げられているこの現状を、私たちが変えていかなければならないと強く思いました。

これからの私（今後の抱負）

広島を訪れる前と比べて、私は戦争についてより深く考えるようになりました。現地でさまざまな展示を見るうちに、「原爆が落ちたとき、当時の人たちはどう思っていただろうか」「そのときのアメリカ軍の気持ちは何だったのだろうか」といった疑問が次々と湧いてきて、これまで以上に戦争や歴史に強い関心を持つようになりました。

いろいろと考えを深めていくと、最終的には「必ず戦争をなくさなければならない」という強い想いにたどり着きます。私は、戦争が起こる大きな原因は、人と人との小さなケンカや争いからはじまるのではないかと思っています。たとえば、相手を思いやる気持ちが少し足りなくなってしまう瞬間があります。そうした小さなケンカがどんどん大きくなると、やがて国と国との大きな争いにまで拡大してしまうかもしれません。

そうならないために一番大切なのは、日頃から「人を思いやる気持ち」や「お互いを許す気持ち」を持つことなのだと気づきました。これまで、私自身も相手への思いやりやがまんする気持ちがどちらも欠けてしまうことが多々ありました。だからこそ、これからは自分のそうした部分をしっかり見つめ直し、直していきたいと思います。



令和8年9月発行

発行／滑川町 編集／総務政策課

〒355-8585 埼玉県比企郡滑川町大字福田 750 番地 1

電話 0493-56-2211

FAX 0493-56-2448